

## 西大峰教雲山板馬見山について

氷ノ山、後山、郡岐山国定公園の東端、国土地図には後山（一、三四四）千種町河呂、地元では板馬見山とよばれています。信仰する人々からは靈山として教雲山ともよばれ、この山は一、三〇〇年前（飛鳥時代）に修驗道の祖、役の小角（えんのおずの）が大和の葛城山よりこの山中に移り住み七年間にもわたりてあちこちと行場を開いたとも言われています。そして、西の大峰山とよばれていることがわかりました。東の大峰山（奈良県）とそつくりの数十ヶ所の行場が不思議にあることがわかりました。板馬見山の行場は断崖絶壁となつており女人禁制がしかれた本格的修業道場が江戸時代に存在した遺跡があります。役の小角は、不動明王、藏王権現の二像を岩に刻んだ、それをまつり修業したのが起源で、（こおり取場）滝の行場、周り岩行場、胎内くぐり岩行場、大のぞき岩行場、びょうぶ岩等が断崖絶壁を利用したものや頂上付近には、広い岩穴があり格子岩と名付けられ風雨にさらされた処もあり、おこもりも出来たようです。このような行場が五十数ヶ所もあり、また渓谷も数多く樹々の姿を清流の豊かな流れに映えて、どうだんつづじ、シヤクナゲが咲き水中には美しい桜石が鮮やかに花を咲かせていました。この行場から行場には二十三体の石仏がまつられています。

山のロマンを求めてハイカーたちの山道となりました。急斜面にはハシゴ、石段、絶壁にはロープを備えて女性でも登れるよう一般コース、行場コース、平成之大馬鹿門コースが整備されています。また頂上からは尾根づたいに北へ向かって、ちくさ高原スキー場に下山されます、また西に向かつて那岐山、東粟倉村にも下山出来ます。

保存会ではこの山の貴重な文化と歴史を後世に伝え残し、村おこしの一環として昭和五十八年に本格的修驗宗山伏を二十数名で千種行者講を結成し、日本山岳宗教總本山京都聖護院門跡に登録し、平成八年には松ノ木公園に南無神変大菩薩碑を建立しました。平成十五年には大鳥居を建立した。

### 保存会の毎年の行事

大トンド祭

るり寺鬼追い採灯大護摩供

一月

山開き登山

五月

十一月三日

板馬見山保存会

千種行者講